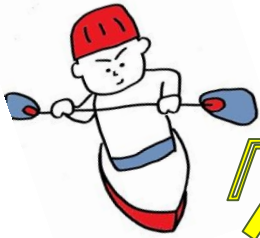


スポ振通信

今月のテーマは



『海・川 遊びに潜む危険』です



夏はマリンスポーツやレジャー、自然体験活動など海・川に行く人が多くなります。

自然とのふれあいはリフレッシュ効果があり、子どもにとっては自然から学ぶ事は数えきれません。

しかし… 海・川には危険がいっぱいです。

1年間の半分の水難事故が6月から8月までの3か月間に起こります。
この時期は特に水難に対する注意が必要です！



平成24年中の夏期（6月～8月）における水難事故

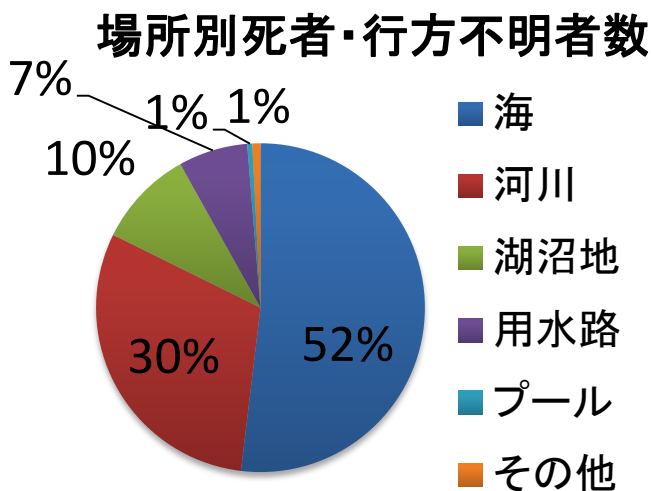
○ 発生件数 714件（前年対比+20件）

○ 水難者数 872人（前年対比-31人）

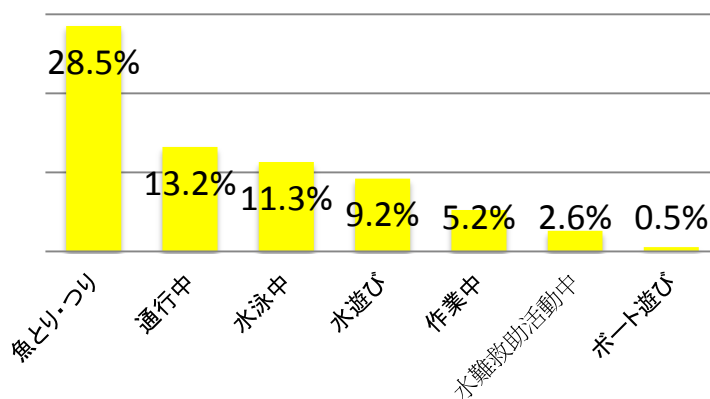
うち死者・行方不明者348人（前年対比+1人）でした。

場所別では海が一番多く、次に河川でした。

行為別では魚とり・釣りをしている事故にあう場合が一番多い様です。



行為別死者・行方不明者の割合



海・川で多い怪我・病気

日焼け

重傷になると水ぶくれや皮膚が剥離する「やけど」になってしまいます。



擦り傷・切り傷

岩や貝、珊瑚、ガラスなどで特に足に怪我をすることがよくあります。海岸・川岸での怪我は雑菌が多く、化膿しやすく、治りにくいものです。

海・川で多い怪我・病気

危険生物との接触

沖合や溪流で危険生物と遭遇をしないよう、事前に存在確認をしましょう。たとえ小さな生物であってもむやみに触れないようにしましょう。



低体温症



体温がさがってくると、人間の体は「内臓」を守ろうとするため、胴体に血液を集めます。このため、手足・頭に十分な血液が回らずにくちびるや爪がムラサキ色になります。

溺水

たとえ足がつく場所であっても、転んでパニックになれば溺れてしまいます。



熱中症

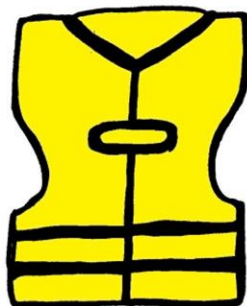
体温、体液の障害をまとめて熱中症といいます。高温多湿の環境に長時間いることで起こるため海・川では発症率が高くなります。

安全で楽しく海・川を楽しむために

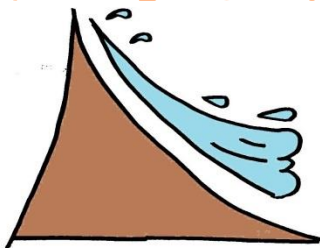
子どもだけで遊びにいかないようにしましょう。



ライフジャケットを着ましょう。



川で遊ぶ場合は、
鉄砲水に注意しましょう。



海・川の危険を知り、指導者の指示に従い、正しく安全な行為をとりましょう。

当事業団では水難事故減少を願い、地域の小学校などに出向いて着衣泳の講習をおこなっています。詳しくは当施設職員までお問い合わせください。



参考文献：

2008,「『川遊びのルール』～川の事故をなくすために！未来の『川ガキ』復活のために！！～指導者用・大人用・安全基本管理編」 天竜川総合学習館かわらんべ。

2005.3,国土交通省湾岸局監修 自然体験活動指導者のための海辺の安全対策マニュアルpp35-43

2013.6,「平成24年中における水難の概要」警察庁生活安全局地域課。